

島根マイプロ 実施報告書

事業名称：1. 県レベルのシステム構築 (1)－①教育プログラム等の開発



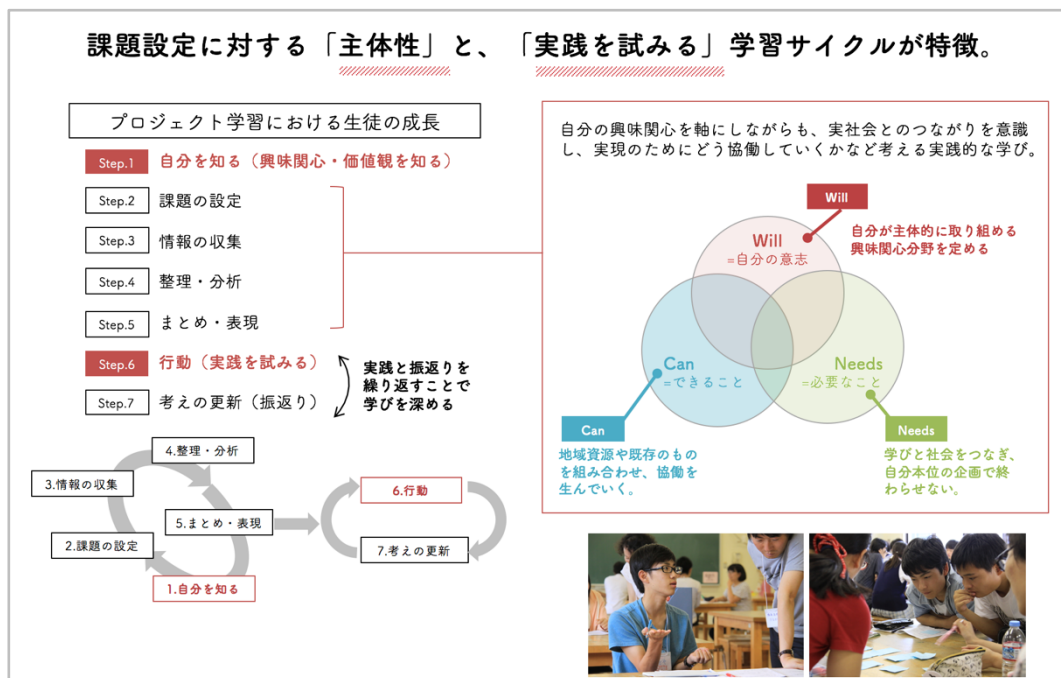
2020年3月31日
一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム

「主体的に課題を見つけ、さまざまな他者と協働しながら、
答えのない課題に粘り強く向かっていく力」を育む環境づくり

本プログラムは生徒が地域や身のまわりの課題を自ら見つけ、多様な人と協働しながら粘り強く課題解決に取り組んでいくプロジェクト学習(PBL=Project-Based Learning / 課題発見解決型学習等)の推進を、生徒及び、その学習活動を支える教員・コーディネーターの両面から支援するものです。プログラムでは学校を越えた意欲ある生徒との交流や多彩な大人との対話の機会をつくり、生徒の学びへの意欲や協働性を更に育てていきます。また、プロジェクト学習に関わる教員・コーディネーターなどの大人も他地域の取り組みや専門家から学び、プロジェクト学習を推進する資質・能力を更に高めていきます。

島根の生徒たちに身に付けてもらいたい「主体的に課題を見つけ、さまざまな他者と協働しながら、答えのない課題に粘り強く向かっていく力」を更に育む一助を、本プログラムで担っていきます。

▼本教育プログラムの学習サイクル



(2) プログラムの流れ



スタートアップ
合宿

自分の興味関心や問題意識を一段掘り下げて考える中で、自分のプロジェクトテーマを探究。プロジェクトを進めるチームづくりとプランを練る2泊3日の合宿。

見積表記：スタートアップ合宿



フォローアップ
ワークショップ

それぞれの地域に戻りプランを実行することでの成功・失敗体験を持ち寄り、次に向けたアクションを磨き直します。

見積表記：
スタートアップワークショップ
フォローアップワークショップ



発表会・
ふり返り

高校生が通年で取り組んできたプロジェクトを振り返り、互いに学び合う機会をつくります。そこでの学びを日常や自分の進路に結びつけ、生徒の成長につなげていきます。

見積表記：
しまね高校生まにぶろじゅくと
島根大会

①開催日時・場所

2019年9月14日(土)～16日(月)
島根県立青少年の家 (サンレイク)
島根県出雲市小境町1991-2

②参加者数

高校生 56人
大学生 13人
社会人 9人

③プログラムの流れ

・1日目：プロジェクトの種を見つける

自分の人生を振り返るワークを通して
自分の過去から大切にしている価値観や
テーマになりそうな種を探す。

・2日目：プロジェクトをつくる

すでにマイプロジェクトを実践した先輩の話聞き、自分のプロジェクトのイメージをふくらませる。
その後、1日目で見つけた種をベースに、具体的なプロジェクトに落とし込む。

・3日目：プロジェクトを宣言する

自分が取り組むプロジェクトを発表し、これからどんなアクションを日常生活の中で起こしていくのか
考える。また合宿全体のふり返りを実施する。

④生徒が考えたプロジェクト例



For ALS Patients

島根の人、日本の人、世界の人にALSについて、また難病について知ってもらいたい、当たり前は当たり前では無い事に気づいてほしい、という想いでこのプロジェクトを始めました。
(1)Facebookで「ALS患者の人達を笑顔にさせる会」を作成、
(2)島根県ALS協会支部長へのインタビュー、(3)島根県難病フォーラムへの参加、(4)雲南ソーシャルチャレンジ大発表会でマイプロの途中経過をプレゼン、などの活動を通してこのプロジェクトを進めています。



マイクロプラスチック

地元の浜辺に漂着物などのゴミがあるのを見て、綺麗にしたいと思い、ごみ拾いのボランティアに参加したことがあります。その際に、ジオパークの説明を聞いて、ただ大きいゴミを拾っただけでは、生物がマイクロプラスチックを摂取してしまい、死んでしまうかもしれないリスクには変わりないことを知りました。どうにかして海岸に漂着するマイクロプラスチックを取り除きたいと思い、このプロジェクトを始めました。



教科書PJ ～S2DGs学びDesign～

私の通う定時制通信制の宍道高校には、学力に不安がある生徒、働きながら通っている生徒、支援が必要な生徒もいます。宍道高校が直面しているこれらの課題を解決したいと思い、約1年前に高校生月1カフェ「Place」をマイプロとして始めました。そこで出会った仲間たちと対話を重ねる中で生まれたのがこの教科書PJです。単位をとるために勉強するだけではなく、学びの楽しさを見出し、正解がある教科書の勉強だけではなく、自分たちの知りたいと思うこと・したいことを実践することで本当の学びを得ることが出来ると思い、このプロジェクトを始めました。

⑤参加者の声

高校生 参加動機

- 先生・顧問に勧められて興味をもった
- 友達・先輩に誘われた
- 楽しそう
- 新たな出会いを求めて
- 地域系部活動に入部しているから
- 他の学校の生徒やいろいろな人と関わってみたい
- 地域社会ともっと関わりたい
- 地域のためになることをしたい
- 自分に新しくできることを探したい
- 自分のやりたいことを見つけたい
- 友達と行っているマイプロジェクトをさらに充実させたものにしたい
- これをきっかけに自分について考えたい
- 自分と向き合うことで進路選択に役立てたい
- 学校の総合学習で1年間取り組んできた町づくりプロジェクトの内容を深め、町おこしの力になりたい
- 全国から集まる志高い高校生と交流することで、視野を広げ、刺激を与え合いたい
- いろいろな人の意見や考えを学び、自分の視野を広げ、これからの活動に活かしていきたいと思った
- 夏休みにアルバイトをした吉賀町内の牧場が、過疎化による経営不振で苦勞していた状況を何とかしたいと思った
- 放課後に地域の方と交流する機会が定期的であり、その中でもっとコミュニケーション力を上げたいと思った
- 自分が今思っていること、周りの人が思っていることを共有し、もっと夢に近づきたい
- 大人になってからやる、誰かがやる、ではなく、何かを変えたいと思ったら高校生でもできるということを伝えたい
- 自分の中で何かをしたいと思っているぼんやりした気持ちを明確にしたい
- 計画を実行するためには、どうやって筋道を立てたらいいのか知りたい
- 学校の良さや地域の良さをもっと多くの人に知ってもらいたい
- 高校3年間で様々なプロジェクトに挑戦して、学んだことを将来に生かしたい
- プロジェクトを進めるのに、何から始めたらいいのか学びたい
- やってみたいプロジェクトがあるが、どうしたらいいのか、本当にできるのか、分からないことだらけで不安で、マイプロに参加すればプロジェクトを実行するための方法を学び、勇気を得られるかもしれないと思った

⑤参加者の声

感想

- 自分が人に対してできることは、そんなにあるのだということに気づくことができました。でも、決してネガティブなものではなくて、その中でも自分が周りの人や所属しているコミュニティに対して何がしたいか考えたいと改めて思うことができました。「伝える」と「伝わる」が違うこと、また、自分の伝えたいことと相手の求めていることが一緒ではないことに気づきました。(大学生)
- 自分は高校生の中にある好きなこと、興味のあること、悩んでいるところを引き出そう、引き出そうとしていました。時にはじっくり待つということが必要だと感じました。自分は聞き上手だと今まで思っていたのですが、本当の聴く力とは沈黙を恐れず、相手から話したい、言いたいと自然と思えるように寄り添うことなんだろうなと気づくことができました。(大学生)
- 私はマイプロに参加する以前は、「地元である大田そして島根の地方創生を牽引する人材になりたい」という想いがありましたが、今回マイプロに参加したことで、その思いが少し変わりました。今までは、“地域”に対して貢献したいという想いが自分の中で先行しましたが、今回島根で働く大人や島根で育っている高校生と出会ったことで、“この人たちのために”地元で働きたいという思いをもてるようになりました。貢献する対象のイメージが地域から人へ変わったことで、自分自身のモチベーションが凄く明確になりましたし、人のために頑張ろうとしている自分が好きになれました。目を瞑って、何のために大田の地方創生をしたいか？と問われた時、人の顔がイメージできる自分になれたことは、本当によかったです。(大学院生)
- 学生の剥き出しの想いや真っ直ぐさに触れたことで、大事なものを見つめ直すきっかけになりました。また、運営の皆さんのこの活動に対する真っ直ぐにさにも触れたことが、個人的には刺激になりました。(社会人・人材業界)
- 高校生と関わる中で、点と点で関わるのではなく、その前後の線の中の点で捉えることが大事だと感じました。「自分と話す前は誰と話してたかな？」「このあとどこのホームグループに帰るのかな？」その前後でどういう風に大人が関わっていたのか、大人同士で繋いでいくことで、自分との関わりだけでは見えなかったものが他の人との間では見えてくることがあったので、高校生との関わりを線で捉えて、大人同士でも繋げていくのが大事だと感じました。(社会人・保育士)
- 子どもたちにとって大人の言葉は大きな影響力を持つことを改めて実感しました。ただ、あくまでも私たちは伴走者であり、決定権は子どもたちにあること、仮に私たちが何か意見出しや提案をしたとしてもそれは選択肢の一つでしかないということはどう伝えればよいかということに苦慮しました。また、想いと力を持った多くの同世代の人たちに出会えたことも大きな財産となりました。(社会人・教育委員会)

⑥当日の様子





しまね未来共創フェスタ

2/8 (土) 1部 高校生マイプロジェクトアワード
2/9 (日) 2部 島根の未来を考える共学共創

主催：地域・教育魅力化プラットフォーム
後援：島根県教育委員会・文部科学省
協力：公益財団法人 日本財団



Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

①開催日時・場所

・しまね高校生マイプロジェクトアワード
日時／2020年2月8日(土) 10:00-22:00
場所／くにびきメッセ 国際会議場
島根県松江市学園1-2-1

・しまね未来共創フェスタ
日時／2020年2月9日(日) 9:00-16:30
場所／くにびきメッセ 国際会議場
島根県松江市学園1-2-1

②参加者数

高校生 132人 (52プロジェクト)
大学生 30人
社会人 15人
観覧 34人

③審査員

- (1) 株式会社益田工房 代表取締役 洪 昌督 様
- (2) 浜田市第一中学校 校長 滝本 浩之 様
- (3) まめ茶の秀翠園 代表 津和野商工会青年部部長 田中 懸志朗 様
- (4) 石見銀山テレビ放送株式会社 取締役 杉谷 孝雄 様
- (5) 一般社団法人平田青年会議所理事長 河原 剛 様
- (6) つちのと舎 代表 三瓶 裕美 様
- (7) 山陰合同銀行 島大前支店 支店長代理 竹本 浩 様
- (8) NPO法人 てごねっと石見 理事長 藤田 貴子 様
- (9) 雲南市役所 政策企画部 部長 佐藤 満 様
- (10) 知夫村教育委員会 知夫村教育魅力化コーディネーター 宮野 準也 様
- (11) 奥出雲町教育魅力化統括プロデューサー 桑谷 猛 様
- (12) 上山佐地区コミュニティ再生会議 事務局 山佐交流センター 主事 安井 章二 様
- (13) 島根県立大学総合政策学部 (浜田キャンパス) 准教授 村井 重樹 様
- (14) 島根大学 教育・学生支援機構 大学教育センター 副センター長 (教授) 泉 雄二郎 様
- (15) 島根大学 地域未来協創本部 地域人材育成マネージャー 高須 佳奈 様
- (16) 島根県教育庁 教育監 佐藤 睦也 様
- (17) 島根県教育庁 社会教育課 課長 畑山 経弘 様

創りたい未来からはじめよう
経営者・社会人・大学生・高校生
立場や世代を超えて、島根の未来を共創する2日間

しまね未来共創フェスタ2019
MY PROJECT AWARD
島根Summit

開催日時：2020年2月8日-9日(土日) [フェスタ詳細は裏面へ](#)
概要 会場：くにびきメッセ (〒690-0826 島根県松江市学園前1丁目2-1)

関東にお住まいの方
2/7 東京 出発
東京→島根 片道無料
サンライズ出雲
しまねUターン列車
2020.02.08

関東以外の学生 (限定10名)
〈Uターン支援〉
片道帰省費無料(上限1万円)

④しまね未来共創フェスタ ゲスト

【民間】※順不同

株式会社いづも農縁 代表取締役 吉岡 佳紀 様
特定非営利活動法人おっちラボ 代表理事 小俣 健三郎 様
株式会社石見銀山生活観光研究所 代表取締役社長 松場 忠 様
株式会社COME TREES 代表取締役 二木 春香 様
有限会社竹葉 代表取締役副社長 小幡 美香 様
株式会社サンキ 代表取締役社長 森脇 信太郎 様
株式会社島根日日新聞社 代表取締役社長 菊地 恵介 様
有限会社玉木製麺 代表取締役社長 玉木 暢 様
FISM株式会社 代表取締役COO 白枝 悠太 様
モルツウェル株式会社 代表取締役社長 野津 積 様
カナツ技研工業株式会社 福島 光浩 様

【経済団体・財団】

一般社団法人島根県経営者協会 会長(株式会社山陰合同銀行 取締役会長) 久保田 一郎 様
松江商工会議所連合会 青年部会長 (有限会社 黒潮社 代表取締役) 菅田 啓司 様
島根県商工会青年部連合会 会長 (株式会社大社木工 取締役) 尾添 泰宏 様
島根経済同友会 (株式会社メディアスコープ 代表取締役社長) 中尾 禎仁 様
島根県中小企業団体女性協議会 副会長(株式会社アート 代表取締役社長) 伊瀬 孝子 様
島根県中小企業家同友会 代表理事 (モルツウェル株式会社 代表取締役社長) 野津 積 様
公益財団法人ふるさと島根定住財団 理事長 原 仁史 様

【島根県】

政策企画局長 野津 建二 様
地域振興部長 穂葉 寛佳 様
商工労働部長 新田 典利 様
教育長 新田 英夫 様

⑤ 2/8 しまねマイプロジェクトアワード タイムライン

2/8 (土) くにびきメッセ会場				
No.	開始	終了	所要	概要
1	8:00			会場準備開始
2		9:30		サンライズ出雲到着@松江駅
3	9:30	9:50	0:20	移動 (松江駅→くにびきメッセ)
4	9:30	10:00	0:30	受付
5	9:00	10:00		審査員ファシリ事前顔合わせ会
6	10:00	10:40	0:40	マイプロ地域Summitオープニングムービー アイスブレイク
7	10:40	11:00	0:20	移動
8	11:00	11:12	0:12	予選ブロック① (発表10 min)
9	11:12	11:24	0:12	予選ブロック② (発表10 min)
10	11:24	11:36	0:12	予選ブロック③ (発表10 min)
11	11:36	11:48	0:12	予選ブロック④ (発表10 min)
12	11:48	12:13	0:25	質疑応答タイム
13	12:13	13:00	0:47	昼食
14	13:00	13:12	0:12	予選ブロック⑤ (発表10 min)
15	13:12	13:24	0:12	予選ブロック⑥ (発表10 min)
16	13:24	13:36	0:12	予選ブロック⑦ (発表10 min)
17	13:36	14:00	0:24	質疑応答タイム
18	14:00	14:20	0:20	リフレクションワーク
19	14:20	14:35	0:15	休憩 & 小ホールに移動
20	14:35	14:45	0:10	審査結果発表
21	14:45	14:55	0:10	移動
22	14:55	15:15	0:20	決勝ブロック① (発表10 min + 質疑5 min)
23	15:15	15:35	0:20	決勝ブロック② (発表10 min + 質疑5 min)
24	15:35	15:55	0:20	決勝ブロック③ (発表10 min + 質疑5 min)
25	15:55	16:15	0:20	決勝ブロック④ (発表10 min + 質疑5 min)
26	16:15	16:30	0:15	審査・休憩
27	16:30	17:30	1:00	マグネットカフェ <ul style="list-style-type: none"> ■ テーマ 5 min ■ マッチング (マグネットカフェ) ■ ダイアログ 25 min ■ 学びを振り返る 10 min
28	17:30	18:00	0:30	閉会式 ★流れ ①審査員からのコメント (5 min) ■ 司会から審査員へ感想や高校生へのメッセージをいただく (2名) ②結果発表 (10 min) 1. 学校部門の代表プロジェクト発表 2. 選ばれたプロジェクトへ全国大会への招待状が渡される 3. 講評、受賞したプロジェクトからコメント → 2つ目の学校部門の発表も同じ流れ 4. 個人グループ部門の代表プロジェクト発表 5. 選ばれたプロジェクトへ全国大会への招待状が渡される 6. 講評、受賞したプロジェクトからコメント → 2つ目の個人グループ部門の発表も同じ流れ ③締め 1. 閉会の言葉 2. 司会よりまとめの言葉 3. 翌日連絡事項を事務局より 4. 記念撮影
29	18:00	19:00	1:00	リフレクションワーク

2/9 (日) くまびきメッセ会場				
No.	開始	終了	所要	概要
1		10:00		場内アナウンス
2	10:00	10:03	0:03	オープニング
4	10:03	10:10	0:07	主催者挨拶
5	10:10	10:20	0:10	全体チェックイン
6	10:20	10:30	0:10	移動→チーム分け
7	10:30	10:40	0:10	未来共創ワークショップ①の説明
8	10:40	10:55	0:15	チーム内自己紹介&チームでの約束&役割決定(15 min)
9	10:55	11:25	0:30	謎解きゲーム
10	11:25	11:35	0:10	司会からコンテンツ・経営者プレゼン登壇者紹介
11	11:35	11:40	0:05	移動
12	11:40	12:02	0:22	【1】 経営者プレゼン 全体40 min (プレゼン15 min+質疑5 min × 2回) 〈A〉 モルツウェル株式会社 代表取締役社長 野津 積様 〈B〉 有限会社玉木製麺 代表取締役社長 玉木 暢 様 〈C〉 特定非営利活動法人 おっちラボ 代表理事 小俣 健三郎 様 〈D〉 株式会社サンキ 代表取締役社長 森脇 信太郎 様 〈E〉 株式会社COME TREES 代表取締役 二木 春香 様
13	12:02	12:08	0:06	
14	12:08	12:30	0:22	〈A〉 FISM株式会社 代表取締役COO 白枝 悠太 様 〈B〉 有限会社竹葉 代表取締役副社長 小幡 美香 様 〈C〉 株式会社石見銀山生活観光研究所 代表取締役社長 松場 忠 様 〈D〉 株式会社島根日日新聞社 代表取締役社長 菊池 恵介様 〈E〉 株式会社いづも農縁 代表取締役 吉岡 佳紀 様
16	12:30	13:00	0:30	作戦会議参加者事前打ち合わせ
18	13:00	13:10	0:10	午後プログラムのオリエンテーション
19	13:10	13:13	0:03	移動
20	13:13	13:25	0:12	未来創造リーダープレゼン(大学生・若手社会人) 〈A〉 津和野高校出身 東京大学1年生 鈴木元太 進路サポートPJT「地域みらい留学から考えるまちと学びのありかた」 〈B〉 三刀屋高校出身 高知大学4年生 藤原拓登・大社高校出身 下江一将 関係人口PJT「若者視点の関係人口-島根との新しい関わり方-」 〈C〉 松江北高校出身 法政大学4年生 野津直生 マチテラスPJT「MACHI TERASU~これからののはたらくを考える~」 〈D〉 隠岐島前高校出身 慶應義塾大学1年生 前田陽汰 まちの終活PJT「地域活性化以外の選択肢とは？」 〈E〉 出雲高校出身 大阪大学4年生 田坂日菜子 わたしと島根PJT「大阪へ進学した私が、今の島根と関わり続ける理由」
21	13:25	13:28	0:03	移動
22	13:28	13:40	0:12	未来創造リーダープレゼン(高校生) 学校部門 〈A〉 松江南高等学校 「LOVELY KOSHIBARA PROJECT 防災マップから見えた脆弱な防災体制の改善」 〈B〉 隠岐高等学校 「隠岐藻塩シイタケプロジェクト ~世界初?独自のブランドを作り出す~」 個人グループ部門 〈C〉 宍道高等学校 「教科書PJ ~S2DGs学びDesign~」 〈D〉 三刀屋高等学校 「出雲神楽再興戦術~伝統を守るために~」
23	13:40	13:45	0:05	休憩
24	13:45	13:55	0:10	チームで振り返りワーク
25	13:55	14:00	0:05	未来共創ワークショップ②
26	14:00	14:50	0:50	【1】 グループディスカッション 50min 問い「意志ある若者に溢れる島根になるために、どんな仕掛け機会があるといいのか？」
27	14:50	15:00	0:10	【2】 全体共有
28	15:00	15:10	0:10	【3】 振り返り・今後に向けて
29	15:10	15:15	0:05	閉会式総評
30	15:15	15:18	0:03	挨拶
31	15:18	15:23	0:05	エンディングムービー
32	15:23	15:26	0:03	写真撮影
33	15:26	15:28	0:02	今後の動きアナウンス
34	15:28			終了/ 移動

⑥参加プロジェクト一覧 (学校部門)

プロジェクト名	プロジェクト概要
守れ！故郷の海！ ー藻場再生への 取り組みー	本校海洋生産科資源生産コースは、平成28年に「隠岐地域沿岸環境保全のための協働事業」に参加し、その後も隠岐の島町や漁業者たちと協力し、磯焼け海域にアラメを移植し、藻場を再生する活動に取り組んでいます。第一段階としてアラメの種苗生産に取り組み、第二段階として磯焼け海域へのアラメの移植試験を行い、アラメの生い茂る里海を再生する活動を続けています。
地域みんなで！ 多文化共生！	学校の授業で先生からたまたま出された《雲南市に住む外国人の困りごとから考える外国人に優しい町とは》という課題について市役所の企画に参加したり、雲南市に住んでいる外国人の方を訪ねた。そこで多くの外国人の方や色々なジャンルの行政の方と関わった。当時出た結果は最初に考えてた仮説とは全く違う結果になり、もっと知りたい、関わりたいと思うようになった。そして外国人を受け入れる側から受け入れられる側の気持ちも知りたいと考え、多文化事業の進んでいる韓国に留学に行った。韓国で自分自身が感じた文化の違いや困った事、嬉しかった事などの経験を活かして私が住む地域で多文化事業を企画・実施して、私の考えを少しでも多くの人に知ってもらい、視野を広げて、地域に住む外国人の方と日本人の輪を今まで以上に広げたいと思っている。
田舎を元気にする	私がプロジェクトを立ち上げたきっかけは学校の連絡でマイプロをしてみませんか？というメールが送られてきて、マイプロに興味を持ち、何か問題と向き合いたいと思えた結果最も身近にある少子高齢化、地域活性化をテーマにしたい！と思ったのがきっかけです。私が実施してきた事は農家(ナオファーム)とふるさと島根定住財団にインタビューと県の県外研修旅行に同伴させていただいたのとしまね田舎ツーリズムについてのサイトを作成しました。他には隠岐の島で働いている方々の視察やN高等学校が企画している職場体験に行ったなどあります。プロジェクトの目的は田舎の事を多くの人に知ってもらい、田舎に遊びにきてもらうという事を目的に活動してきました。
オジギソウの 動く意味と 動き方の違い	私たちはオジギソウが動く意味と動き方の違いについて着目しました。 図書室の司書の先生に勧めていただいた科学雑誌の先行研究を調べた際に、ヨーグルトのふたの裏側にヨーグルトがつかないのは、ハスの葉が水をはじくロータス効果を利用していることを知りました。多くの植物に関する記述が見られました。オジギソウの触ると閉じるしくみをみて、ハスの葉のように何か身近なものに活かすことができなにか考えました。そこで私たちは条件や環境が変わることで動き方に違いがあるのか、また動く意味は何かを調べ、そのしくみを応用できることはないかと考えました。実験は接触刺激を与える実験、風を当てたり水やりの量を変える（膨圧運動に影響が出るかどうか）などの変化をつけながら3回ほど行いました。今後は得られたデータを元に仮説を検証していきます。
安来高校吹奏楽部 地域課題研究	私たち安来高等学校吹奏楽部は平成25年から地域課題研究をしており、毎年毎年受け継がれてきました。昨年までは地域のイベントに参加したり、安来市の音楽文化の現状を調べるという活動をしていました。今年は『若者が文化施設に足を運んでいない』という安来市の音楽文化の現状を知ったうえで持続可能な音楽文化を創りあげるために吹奏楽部である自分たちにできることを何かしたいと思い、若者が興味を持つことができるようなイベントを企画しました。1月19日にミジカなムジカという題で音楽イベントを企画します。
それいけ！ コッペパン！	昨年先輩たちがよしかの里さん共同開発した「なにかとついで、なか吉プリン」は作成時間がかかることや、乳製品の販売許可などで商品化する事ができなかった。9月に施設が新しくなり、調理場やパン工場が大きくなったため、よしかの里の看板メニューを開発することとなった。11月に行われた、吉賀町のきん祭みん祭で2種類のコッペパンを作成し100人の方にアンケートを配り、趣向や吉賀町の季節の食材についての情報を集めた。
地域活性化・ 平田の特産品	高校2年時の総合学習で出雲産小豆についての学習を行いそのなかで、地域のことを知る機会があり、特産品について興味を持った。そして、全国から認められるような特産品を作りたいと思いきや平田地域にスポットをあて現在の特産品状況を調べ、どのように改善すれば全国に誇れるような特産品を作れるかが知りたかった。そのために平田地域の農家さんに平田の作物の魅力聞き、そしてその作物にはどのような土壌であったり環境が適しているか調べ改善策を練った。

⑥参加プロジェクト一覧(学校部門)

プロジェクト名	プロジェクト概要
私たちが広める 安来の魅力	地域課題の研究を進める際に安来市や関連団体と協力してデータカタログサイトを活用した調査研究をし発表、オープンデータの作成にチャレンジする活動。(今年のテーマは安来のいちご)
One team ～地域を繋ぐ 架け橋へと～	益田市が抱える地域課題、少子高齢化、過疎化を解決すべく、私たち高校生が授業の一環としてこのマイプロジェクトに取り組みました。また、自分自身も益田市内の学校外での人と人との希薄さに寂しさを感じていました。だから、私たちがこの企画を取り組むことで人と人がつながるきっかけを作りたいと思いました。具体的にやったことは、益田市20地区の各公民館に行き様々な活動しました。例えば、高津公民館で行ったアオハルライドという高校生のための自転車企画をしました。種公民館では、地域の運動会や文化祭に参加し地域の人と交流を深めました。安田公民館では、パン屋のある駅に木を切る作業から始め、机と椅子の作成をし、1日限定のレストランのスタッフをしました。東仙道公民館では、ふるさと祭りでクッキーとタピオカの販売や、小学生との交流をしました。
～the “shining” place for us～ 私たちの輝ける場所	私たちは、高校の授業の中で10月にインターンシップを行い、11月にジョブシャドウイングを行いました。企業の方に一日密着体験をする中で、地元で働いている大人に興味を持ちました。そこで、どうやったら地元企業の活性化になるかを考えてみました。実施内容として、まず私たちの身近で働いておられる大人たちに、働くことについてアンケートを実施することにしました。アンケートをする際、どのような仕事内容をされているのか詳しく質問しました。次にアンケートを集計し、地元企業の良さを考えてみることにしました。
駅魅力化プロジェクト	主に江津高校生が利用している都野津駅の活性化事業について、JRと島根大学より協働で活動しようと誘われ、地域の賑わいを創り出すために、駅で映画館を実施した。高校生として、実際に駅を利用する地域の方や生徒へのアンケート調査を行い、具体的な活動内容を検討し、映画の上映に決定した。イベント当日に向けて、会場を盛り上げるために、地域の方々や江津高校生による販売も企画して、広報活動や会場の装飾に取り組んだ。実施後に島根大交流会や、地域のコミュニティーセンターでの報告会を行い、地域の方の思いも知り、今後も継続して駅の活性化に関わりたいと考え、駅舎の窓ガラスの装飾を行なっている。
コミュニティー デザイナーを目指して	将来コミュニティーデザイナーになりたいと考えるきっかけとなった地域課題解決学習をとおして、地域に対する関心や、地域を盛り上げたいと思い始めました。地域課題解決学習では、平田本町であるリアル版人生ゲームのマス目の文言づくりのために実際に商店街のお店を訪れセールスポイントやおすすめ商品などを伺いました。イベント当日では沢山の方が商店街を訪れリアル版人生ゲームを楽しんでおられてとても嬉しかったです。この経験を活かしたいと思ったからです。
帰化アカウキクサは しぶといのか	私たちのプロジェクトの目的は、斐伊川の在来のウキクサを残しつつ、年々増加が著しくなっている外来の帰化アカウキクサを除去し被害を軽減する方法の提案です。斐伊川の外来のウキクサは生命力が強く、在来のウキクサの生育を妨げており、生態系を変えていて、斐伊川の現在の様子を見たとき衝撃を受けました。しかし既存の除草剤では外来のウキクサだけを減らしていくことは難しいと知り、何かよい方法を提案できないかと相談したのがこのテーマを立ち上げたきっかけです。まず行ったのは顕微鏡観察によるウキクサの同定です。校内の顕微鏡では難しかったので、大学の顕微鏡をお借りして観察しましたが、結論を出すのは難しかったです。次に行ったのが、除草剤の濃度による効果の違いを調べることです。新しい除草剤の提案ではなく、既存の除草剤の濃度設定によって外来種だけへの効果を高めることができずと考えると計画、実施しています。
源氏巻マップ	津和野高校では授業の一環として総合的な学習の時間があり、二年時には生徒が主体となって地域の問題解決や活性化を目指して活動しています。私はこの総合学習の時間を通して、地域の方々との交流やサポートをしてくれる大人の方々から意見をもらったのがきっかけとなり、源氏巻についてプロジェクトを立ち上げようと思いました。津和野の地域資源となっている源氏巻について、9店すべての食べ比べやインタビューをして、それらの情報をもとにマップ化し、源氏巻を扱っているお店や市役所などで配布するまでを目的としています。9店ある源氏巻のお店で源氏巻を買って食べ比べをし、10月にはオープンスクールで中学生に源氏巻のお店をリストアップしたマップを配布しました。また現時点で、各店舗にアポを取って5店舗にインタビューにいきました。マップに関しても、津和野にある日本遺産センターで総合学習の時間を通してアドバイスをもらいに行きました。

⑥参加プロジェクト一覧(学校部門)

プロジェクト名	プロジェクト概要
地域とともにある工業高校を目指して	出雲工業高校建築科では、建築に関する知識・技術の向上と、自身の学びを活かして地域に貢献することを目的として様々な取組を行っています。今回は、数ある取組の中から以下の3点について、取組の紹介と、そこから得ることができた成果について発表します。・地元の大工さんの指導による屋台の製作と活用(産業界連携)・小学生を対象とした木材加工やインテリアに関する出前授業の実施(異年齢交流)・地元地域の高齢者のための住まいのメンテナンスに関するボランティア(地域貢献)
LOVERY KOSHIBARA PROJECT 防災マップ作りから 見えた脆弱な 防災体制の改善	部活動の先輩から引き継いだ、高齢者の方々に絵葉書を贈る活動をしたところ、南高がある古志原地区に住んでいる独り暮らしの高齢者が想定以上の375人もいることを知った。近年多発する災害時に高齢者が混乱しないように高齢者向けの防災マップを作成するに至った。飲用水の確保のための災害救援ベンダーの所在を探索したが古志原地区には設置されていなかった。そのため、メーカーに仕組みを聞き、避難所への設置を訴えた。今後、松江市教育委員会に対し、公民館に災害救援ベンダーを設置するようお願いしようと考えている。生活用水には井戸水の活用を考え、地区に長く住む方を訪問して場所を調べ、マップへの掲載をお願いした。AEDについてもインターネットの情報から設置していた事業所全てに連絡し、有無と使用できる時間を確認した。公民館活動で発表し、地域の方に情報提供を求めた。また、水道局の方に震災後の上下水道の話聞いた。
地域人材育成 循環システム 「平田プラタナスプラン」の構築	平田高校では、総合的な学習で地域協働学習をしています。この学習は、地域との協働による高等学校教育改革推進事業として、平田高校と平田地域を繋ぐために計画されました。昨年平田高校では、地域人材の育成を掲げてこのプロジェクトに取り組んでいます。平田高校では、この学習を通して地域人材育成循環システムを作り上げたいと考えています。私たち高校生が地域と協同することで、卒業後も平田に関わる人を増やし、平田にイノベーションを起こします。そして、定住人口、ファン人口が増え、最終的には平田を担う若い子どもが育つという流れを定着させたいと考えています。このプロジェクトをより円滑に進めるために、平田商工会議所の協働に加え、島根県立大学との連携協定締結など多くの方にお世話になっています。
川本町の良さ！ 情報発信プロジェクト	このプロジェクトの目的は、私が今生活している「川本町」の良いところを多くの人たちに知ってもらうことです。実施内容はまず最初に川本町でしか体験できないことを学び「ふるさとの良さを知る」ということをしました。そこで自分が体験させていただいた「鮭の観察体験」についてレポートを作り、発表しました。また、小学生を対象にした自然と関わるイベントやレールバイク乗車体験など自分が地域とつながった活動を「地域系部活動」の報告会で2回発表しました。
小さな町の 小さな保育所 木部谷で大きな夢を	吉賀町の活性化を目的として・夏には吉賀町の野外音楽フェスティバルという祭りで休み時間をつかって線香花火をつかったアトラクションを実施した・その後、木部谷保育所の園長先生から保育所をPRするパンフレットの作成依頼がきた実際に保育所に取材に行き園長先生たちにインタビューをしたり子供たちとの写真も撮りパンフレットを作成した。さらに、保育士さんや保護者さんの要望に応じて10月の東京Uターンフェアに間に合うように作成し、実際に東京で配ることができた。
マイクロプラスチック	地元の浜辺に漂着物などのゴミがあるのを見てそこを綺麗にしようと思いました。ごみ拾いのボランティアに参加した際にジオパークの説明もしてもらいました。その中で、ただ大きいゴミを拾っただけでは、生物がゴミによって死んでしまうかもしれないリスクは変わりないことを知りました。プラスチックで物を作るための大本となるマイクロプラスチックをどうにかしなければならぬと考えました。そこで私たちはどうにかして海岸に漂着するマイクロプラスチックを取り除こうと思いました。
出雲コーチンの 復活を目指してIV ～明治から平成・令和、 そして次の時代へ～	島根県には大正時代に作出された地鶏「出雲コーチン」があります。この鶏は外国産品種との競合により、産業的には利用されることはありませんでしたが、県内の保存会などの愛鶏家により飼育されてきました。しかし、県内にいくつかあった保存会も会員の高齢化や鳥インフルエンザによる風評被害により解散され飼育数が激減していました。私たちはこの出雲で作出された「出雲コーチン」を飼育し増産することで種の保全と共に地鶏化を目指し、地域の活性化に取り組むことを目標とし研究活動に取り組んでいます。今年度は地鶏化の推進に取り組むとともに人工授精を利用し種の保存に取り組みました。

⑥参加プロジェクト一覧(学校部門)

プロジェクト名	プロジェクト概要
小さな勇気を大きな自信に変えるために	人との関わりが苦手だった自分が、人と話をするのが好きになるプロジェクトです。元々自分に自信を持ってなくて、「自分って何もないなって思っていた」ときに、学校の先生から学校外のワークショップに参加するように勧められたことがきっかけです。最初に参加したワークショップでは、益田の魅力を再発見する活動でした。それまで県外から来て「益田って何もない」と思っていたけれど、益田の魅力について知ることが出来て、いろんな人に伝えたいと思うようになりました。それから、もっと益田のことを知りたいと思って、学校外のワークショップにたくさん参加するようになりました。この半年間で、学校外の活動に自ら参加した回数は合計6回にも及びます。
日御碕の観光価値を見直し、出雲市の観光客を増やす	研究の目的は、鳥根県において最上位の観光客数を誇る出雲市の観光客数の減少に歯止めをかけ、観光客増を図ることである。この研究テーマを設定したきっかけは、観光客数の減少が宿泊業・飲食業などに影響を与えるだけでなく、それを支える農業や工業にも影響を及ぼすことを知ったからである。また、日御碕に着目したのは日御碕には様々な資源があることに気づいたからである。探究活動の実施内容については、日御碕を深く理解するためにフィールド調査を2回実施した。また、文献調査や日御碕を見て感じた疑問を日御碕ビジターセンター、境海上保安部に質問を行った。そして、日御碕の認知度等を把握するために、神門通りで約70名の方にインタビュー調査を行った。これらのことから、日御碕を今より一層活用し、観光地として新たな魅力を発信することで観光客増加につながるのではないかと考えた。
インスタ映えするアスレチックを作ろう	この吉賀町にアスレチックが無く、いろんな年代の人が楽しめる場所があまり無いと感じました。そこで自分たちでアスレチックを作って、いろんな人たちが楽しめるようにしたいなと思い、このプロジェクトを立ち上げました。そしてアスレチックを作るだけでなく、今いろんな人が利用しているSNSを使って吉賀町とアスレチックのことを広めようという話になり、インスタ映えするアスレチックを作ることになりました。ターザンロープやブランコなどいろんな年代の人が楽しめるアスレチックを作りました。
地域課題解決学習	私の通う高校のある鳥根県出雲市平田町では、シャッターの降りている店の目立つ「シャッター通り商店街」となっている事が課題のひとつにあげられています。平田高校ではこの課題を解決するために、地域の方々と協力して何か地域に貢献できる活動ができないかということで、地域課題解決学習という活動が始められました。4つのグループにわかれた活動で、その中で私に関わったのは、平田町で毎年開催されている平田祭りで課題となっている、人通りが少なく賑わいが薄れているエリアを私たち高校生が考えたイベントで盛り上げるというプロジェクトです。私たちのグループは、子供の向けの射的や飲み物当てゲームなどを開催し、祭りを盛り上げることに成功しました。
隠岐藻塩シイタケプロジェクト～世界初? 独自のブランドを作り出す!～	本プロジェクトの目的は、豊富な環境と歴史がある隠岐の島町に現在、魅力的な(付加価値のある)シイタケがないという課題を解決することで、隠岐の有利な点を活用して地域を潤わせることです。ジオパーク研究の授業でフィールドワークを行った時に、木がどれほど地域にとって関係深いかということ、一方で、現在その強みを活かせていないことを知りました。そこで木とシイタケを合わせることで隠岐の新たな有利な点を生み出せないかと考えたことが活動のきっかけです。活動内容は、世界初の藻塩を散布して育てる「藻塩シイタケ」の試験栽培に取り組んでいます。シイタケの事を一から教えてもらうことから始まり、シイタケ農家の方への聞き取り、栽培場を見に行くなどたくさんのシイタケ栽培に取り組んでいる人たち、「島の香り隠岐藻塩米」の共同研究をしているJA、鳥根大学との話し合いの中で進めています。

⑥参加プロジェクト一覧(個人部門)

プロジェクト名	プロジェクト概要
言の葉流伝	言葉に対し意識を高めることが目的です。中学3年生の時に、益田市の社会教育の取り組みを発表する『ひとが育つまち益田フォーラム』に登壇したことで社会教育に興味を持ちました。それから高校生になり、益田市の谷上さんが主催するシャカイノマドというイベントに参加するようになりました。そのうち私自身が興味関心の強い、言葉をテーマにしたワークショップを実践したいと思うようになりました。ワークショップの内容は①ワードウルフを用いたアイスブレイク、②言葉の持つ様々な面について私自身が感じたことを発信するプレゼン、③参加者自身が持つ語彙力を生かし、その人自身を宣伝するマイキャッチコピーを作る、④参加者がグループに分かれ、グループ内で参加者一人一人が一文ずつ書き小説を作る「リレー小説作り」等を2時間の枠で実施しました。シャカイノマド以外にも、社会教育系のイベントの枠を借りもう一度トライする予定です。
出雲神楽再興戦術 ～伝統を守るために～	私が住んでいる雲南市に根強く伝えられている伝統芸能である出雲神楽は、神楽人口の減少により衰退消滅の危機にある。私は、「受け継がれてきている郷土伝統を消滅させることは絶対にあってはならない、何とかして食い止めたい」と思い活動を始めた。実際には、学生の神楽チームを作り神楽を上演したり、触れ合いコーナーを作成したりしていたが、このまま学生が上演していくことは現実的に難しいと、感じたため新たに神楽ブランドを立ち上げ、ブランドの名前やロゴ作り、ステッカー作りなどを行っている。
学校内の多様な考え	私のプロジェクトの目的は自分の為です。私のプロジェクトは「学校内の男女性差別」についてでした。私は性的少数者ではありません。しかし、このプロジェクトで性的少数者の方がいるかもしれないからその人の為にプロジェクトするというわけでもありません。私は学校にいる生徒に多様な考えを持って欲しいと思っているからです。実際にまずは先生方に男女の性問題についてどう考えているかを聞いて回りました。5、6人先生です。私の通う高校は小・中・高校とほとんど付き合う人が変わるがない人が多いです。私は高校から島根に来ており、所謂「よそ者」です。今まで同じ人達に囲まれてきた人にとって私は異なった考えを持った変わったやつ、と思われがちです。そうすると私は学校生活を過ごしにくいです。私が学校で生活しやすくする為にも生徒に多様な考えを持ってもらいたい。という自分の為のプロジェクトとしています。
地域を読む！ 知る！広げる！ プロジェクト	このプロジェクトは私が地元の若者にもっと地域を知って欲しいという思いから生まれました。その思いを通して「のぎ自学室」でお話ししたところ、代表の方に助けて貰ってイベントを開くことになりました。そして9月中旬に「地域を読む！知る！広げる！～社会に飛び出すはじめの一歩～」というイベントを中学生を対象に行いました。また、そのイベントの記録を冊子にして私の学校や参加してくれた中学生、公民館などに配布し、皆に共有できるようにしました。
I am プライドマン	I am プライドマンは、「振り返りのきっかけ作りや手伝いを行い、自分のことを誇らしく思える人を増やしたい」という思いから生まれたプロジェクトです。私は、中学校のキャリア教育の時間を使って、中学2年生に進路選択に焦点を当てた授業を3回行いました。1回目は、私の進路選択を話し、参考にしてもらうために、ゲストトークの授業を。2回目は、中学生との関係作りを目的とし、テスト勉強のお手伝いを。3回目は、メインである木を作ろうというワークを。これは、過去を振り返り、木で例えると幹の部分となるような、自分の軸を見つけるというものです。3回の授業を通して、あまり将来について考えていない子が、考えることの楽しさを知ってもらうことをゴールとして取り組んできました。
Twins kitchen ～初めての挑戦～	このプロジェクトの目的は、益田の食材を使って、子供からお年寄りまでが美味しく食べれるお菓子を作り、地域の人に試食してもらうことです。立ち上がったきっかけは、自分の好きなこと、興味があることで益田の人を「笑顔に」「健康に」できるお菓子のレシピを提案したいと思ったからです。実施内容は、益田の食材の真砂の豆腐・美都の蜂蜜を使って、健康で美味しいパンケーキのレシピを作り地域の人達に試食会を行いました。この過程の中で沢山の方々と交流し協力して頂きました。例えば地元企業の社長さんに試作したものを食べてもらいアドバイスを頂いたり、無料販売をする場や食材を提供していただきました。また、地元の方々に試食してもらう中で「おいしかったよ！」「商品化したら是非買いたい！」「頑張ってるね！」など温かい言葉をかけてもらいました。当日は514個のパンケーキを子供からお年寄りまでの幅広い年代の方々に試食してもらいました。
共創学習	先生と生徒の間には大きな壁があります。生徒も先生も面白いことや大切なことを考えているのに、その壁のせいで伝え合うことが出来ていません。そんな環境を変えることができれば、先生と生徒の関係の改善だけではなく、リアルな高校生の意見を伝えることで授業がより意味のあるものに、何より楽しいものになるのではないかと考えます。壁を作る原因が「互いの意見を受け止め合う意識のなさ」であると考えたので、その壁を取り払うためにプロジェクトを作りました。このプロジェクトでは、「受け止め合う」ことを意識してディスカッションをします。それも何個もステップを用意し、小さいものから順に行います。今私たちは、生徒だけでディスカッションをするというステップを踏みました。これによりまずは生徒の中で「受け止め合う大切さ」に気づいてもらおうと考えています。

⑥参加プロジェクト一覧(個人部門)

プロジェクト名	プロジェクト概要
繋がるプロジェクト	<p>きっかけは小学校3年生の時に愛猫の亡くなったことでした。自分をもっと育てることに対して勉強していたら、命に責任を感じていたら、と思ひ悲しさと後悔でいっぱいでした。そんな時、新聞で動物が殺処分されていること、そんな子たちを救うボランティア活動をしておられる動物愛護団体の存在を知りました。そして、こんな現実あってはならない、無くさなければならない、自分が動物の命を守らなければならないと強く思いました。私が、計画したプロジェクトは伝えることです。動物の命を守ると言っても、簡単に出来ることはありません。そこで私が考えたのは、自分が中心となり、殺処分の現実などを発信して、それに興味を持ってもらい、次の人に発信してもらうという方法です。</p>
広げよう！ご縁の輪	<p>プロジェクトの目的は違う県や、町外の高校生との交流です。そして将来その交流した高校の近くに行ったら、顔見せようかな？と思えるような関係を作ることです。立ち上がったきっかけは今年の9月にマイプロジェクトに参加したことです。もともとマイプロに参加したのは、色々な人の意見や考え方を知りたいと思ったからです。実施内容はまずプロジェクトの協力者を集めようと思ひ、クラス内で私のプロジェクトについて説明しました。そして12月16日には隠岐島前高校とzoomを使ってオンラインで繋がろうと思っています。また、イベントの企画側を知ったり、まず身の回りから交流をしようと思ひ、「始まりの会」と言う地域の大人や、中高生が交流し、お話をする場をイベントを大人と中学生と高校生と一緒に企画し、実施しました。</p>
Cachette	<p>私たちは地域活動を始める前に、益田に必要なことについて全員で話し合った。そして、高校生になると中学生と話す機会がめっきり無くなることに気づき、中学生が高校生活を楽しみにできるように、市内の中高生を繋ぐ活動をしようという目標ができた。そこで、益田には勉強できる場が少ないことを受けて、中高生が勉強を通して繋がれる場を企画した。具体的には、私たち高校生が中学生に勉強する場を提供しつつ、課題を終わらせるための手助けをするという活動だ。これなら学習スペースとしてだけではなく中学生と交流できると思った。実際に活動をした時には、勉強で分からないところのみならず、高校生活などについて相談してくれた。開催したのは今年の春休みに3回、夏休みに4回で、冬休みは2回の予定だ。中学生は普通、午前に部活があるため、午後に行った。また、中心部に行くのが難しい僻地の中学生の為にメンバーの出身地区の公民館5か所で活動した。</p>
教科書PJ ～S2DGs 学びDesign～	<p>私の通う宍道高校は定時制通信制の学校です。学力に不安があったり、働きながらとか、支援が必要な生徒もいます。また学校に通えない生徒も沢山いて、宍道高校の今の課題は社会全体の課題でもあります。私自身この学校に偏見をもっていました。しかしハンディを持っていても一生懸命生きている生徒と出会いました。気づき解決したいと思ひ、約一年前に高校生月一カフェ「Place」をマイプロとして始めました。家でもない、学校でもない居場所作りを通じて、少しずつ仲間が増えてきました。カフェで対話を重ねる中で生まれたのがこの教科書PJです。単位をとるために勉強するだけではなく、学びの楽しさを見出し、自分たちにとっての本当の学びを探究したいと思ひました。正解がある勉強(教科書)だけではなく、自分たちの知りたいと思うこと・したいことを実践することで本当の学びを知ることが出来ると思ひました。</p>
アスギミック ～挑戦するきっかけを 仕掛ける～	<p>元々、グローバルラボと言う地域系部活動に入部している人は地域の大人とコミュニケーションをとる機会に恵まれています。私自身、その出会いや対話の中で自分の得意・苦手なこと。礼儀や会話の進め方など、様々なことを学びました。しかし、部活動に所属していない人は？私自身、津和野高校に来るまでは自分の興味のあることすら、よく分かっていませんでした。挑戦するために必要なのは少しのきっかけだと思います。津和野は高校生が挑戦するための地盤がある地域です。津和野高校生が挑戦するきっかけをつくりたい。そんな思いでプロジェクトを始めました。実施内容は津和野高校に視察に来た大人の方や、津和野で出会った大人の方に高校生と座談会形式で対話する場をつくるというもの。高校生には将来のこと、高校生活のこと、不安なことがいっぱいあります。そういったことを直接聞いてみよう。将来のこと、自分のことを考えてみようという趣旨です。</p>
ちえだって食堂 ～「食」を通した 新しい コミュニティを～	<p>目的: 年齢関係なくだれもが安心して食事をする事ができるコミュニティを作る。 きっかけ: 地域で「料理」で繋がった協力してくれる大人から「子ども食堂」を開きたいという声をきいたから。実施内容…10月5日に「第一回ちえだって食堂」を「ちえだって」で開催。約40人の子どもからお年寄りまでが参加。12月18日に「第二回ちえだって食堂」を「隠岐国学習センター」で開催予定。今回は参加者を高校生に焦点を当て行う予定。</p>
創り繋ごう！ ～ささえあいの リレー～	<p>私たちのプロジェクトの目的は、『地域と学校の活性化』です。このプロジェクトが立ち上がったきっかけは、地域行事などから湖南地区の衰退を目の当たりにした事です。私は市立湖南中学校を卒業し、湖南地区からは離れた高校に通っています。ですが、湖南地区の方にたくさんお世話になり、高校生になりました。日々離れた場所で一日の大半を過ごしていても「湖南地区に貢献したい!」という想いが常に心の片隅にありました。そんな時、冒頭でも述べたとおり、課題を発見しました。その課題の解決に貢献して、恩返しをしたいという一心でこのプロジェクトは立ち上がりました。実施にしたことは、①地区の市立中学校や公民館への実態調査 ②松江市議会議員の方との意見交換・インタビュー ③市立中学校へのワークショップ・講和の実施(2020年1月中旬予定) ④他地区の事例調査(2020年1月下旬予定)です。</p>

⑥参加プロジェクト一覧(個人部門)

プロジェクト名	プロジェクト概要
Status Update Project NEO	私は、2018年12月23日に、学校のコーディネーターさんに誘われてスタートアップキャンプにさんかしました。そこで、いろんな人と話している間に構想が膨らんで私のプロジェクトが始まりました。地元である大田市に住む外国の方々の為にできることをしていく、大田市の学生との架け橋になることなどを目標にしてこの一年活動してきました。活動としては、イベントの実施(1回)・日本語ボランティアへの参加(5回程度)です。イベントは、ALTの先生と呼びかけで集まってくれた高校の生徒で、クッキングやゲーム、トークなどをしました。日本語ボランティアは、大田市にある日本語サークル「こだま」にボランティアとして参加させていただきました。大田市で働いておられるブラジルの方に日本語を教えたり、一緒にイベントに参加したりしました。
吉高に野球部を	私がこのプロジェクトを立ち上げたきっかけは、9月に参加したスタートアップキャンプです。もともと私は野球が好きで、同じ9班にいた横田高校の子も私と同じく野球好きだったので意気投合し野球に関するプロジェクトにすることにしました。プロジェクトの目的は吉賀高校に野球部を創ることです。実施内容は、まずそもそも野球部に入りたい人がいるのかを調査するために町内の小中学校の生徒にアンケートを行い需要を確かめようと思っています。
かれー★らいす ～みんなで One Team～	きっかけは、一昨年ますだ祇園まつりで恒例のゲームを出店している地域のおじさんが体調を崩し出店が困難であると知り、自分でもできることはないかと考えたところからだ。翌年、主催の益田商店会に懸け合い仲間を募ってお祭りに出店した。私の地区を『らいす』と見立て、集った若者が具材となり幸せなスパイスを振りかける。真ん中の星は希望を込めた。これが、「かれー★らいす」だ。当初の目的は、高校生を中心とする仲間と地域の祭りに出店の形で参加することだった。設立して2年目、昨年は地域のイベントでゲーム出店を2回、今年も2回の出店を行った。お客さんの対象年齢や場所・時間帯により、毎回出店内容や実施方法を検討し改善してきた。現在では実施前の仲間との話し合いや主催者との事前協議を通じて、地区の良さをメンバーと共有しチームの中での役割を通じて自分を成長させみんなで「One Team」になり行動するという目的になっている。
島根から世界へ！ 石見神楽の英訳	このプロジェクトの目的は、島根県石見地方の伝統芸能である石見神楽を外国の方により楽しく・より分かりやすく伝えるということです。プロジェクトを立ち上げたきっかけとしては、英語で書かれた分かりやすいパンフレットがなかったということです。分かりやすいパンフレットというのは、あらすじだけでなく絵本のようにセリフや場面ごとの写真を載せたものです。このパンフレット作りでは、実際に外国の方から意見をもらうことを大切にしています。今までに3回ほど外国の方から意見をもらうことができました。今年イスラエルの方に神楽を上演する機会があり、その際はアンケートを作り答えてもらいました。また、外国の方が集まるイベントでは直接パンフレットを見てもらい、その場で意見をもらうことができました。そして、津和野町役場にはネイティブチェックをしてくださる外国の方がおられてその方にも意見をもらうことができました。
For ALS Patients	島根の人、日本の人、世界の人にALSについて、また難病について知ってもらいたい！知ってもらい当たり前は当たり前では無い事に気づいて欲しいから。 action1:Facebookで「Als患者の人達を笑顔にさせる会」を作成。 action2:島根県ALS協会支部長である景山敬二さんと直接会って話を聞く。 action3:島根県難病フォーラムへの参加。 action4:雲南ソーシャルチャレンジ大発表会で、マイプロの途中経過をプレゼン。
祀おしゃべり会祀	プロジェクトの目的は段階を経て変わっていく。初期段階は互いを知ること、中期段階は寮の仲間であることを自覚すること、最終段階は心理的安全性を作り出すこと。きっかけは、私が三燈寮の副寮長を任されたことだ。そこから寮を考える対象に入れ始め、寮の課題が見えてきた。今回はその一部を紹介する。それは一年生同士が険悪になっており、一部の一年生だけで集団を作り、2、3年生に対しても敵対心を抱いていたことだ。これをなんとかかしたいと思った。実施内容は、5、6人でおしゃべりすることだ。語るのではなくおしゃべりにしてることで柔らかな雰囲気を出している。
ゆめたび ～わたしの あそびたび～	このプロジェクトの目的は、2つあります。1つ目は、お世話になった方を喜ばせることです。2つ目は、小学生と高校生と一緒に「ワクワク」できる場を創り、島前地域の未来に新たな可能性を生むことです。このプロジェクトが立ち上がったきっかけは、私が高校1年生のときから約1年半にわたって取り組んだ「あそびたび」プロジェクトを終えたときに、私の中に悔しさが残ったことです。「あそびたび」プロジェクトでは、約1年半にわたって約20回ほどのイベントを行いました。イベントの中では、小学生と高校生が自分と友達の新たな「持ち味」を見つけることができるように、自分の興味に沿ったテーマを設定し、高校生や地域の方との対話や実践を通してそれぞれの作品を作成しました。この「あそびたび」の続きを描いたものが「ゆめたび」です。「ゆめたび」はまだ企画段階なのですが、1月にイベントを2?3回行う予定です。

⑥参加プロジェクト一覧(個人部門)

プロジェクト名	プロジェクト概要
continue to the future	<p>私たちがこのプロジェクトを始めたきっかけは総合の探究です。私たちは、外国の方に観光雑誌をつくっていました。そこで、外国の方とのイベントに参加するにつれ、外国の方たちに、イベントの情報を提供したいと思いました。このプロジェクトでは、まずイベントに参加して、アンケートを実施します。そして、アンケートで得られたアドバイスや情報をもとに雑誌を作ります。そして、自身の体験もふまえた雑誌につくりあげます。このプロジェクトの目的は2つあります。1つは、大勢の外国の方にイベントや雲南のいい所を知ってもらうことです。知っていただければ、悩みを相談でき、雲南がより住みやすい町になります。2つ目は、外国の方に雲南で活躍できる場を知ってもらうことです。実際に雲南に来て、好きなことができない外国人の方は多いです。その人たちの手助けとなるような雑誌をつくります。</p>
島根発！ 高齢者事故のない 日本へ	<p>プロジェクトを立ち上げたきっかけは、高齢者ドライバーの事故のニュースを見て島根ではどのような対策をしているのか現状が気になりその対策を全国に広げて高齢者の事故を無くしたいと思ったからです。プロジェクトの目的は島根県独自の事故の対策を全国に広げることです。実施内容はまず初めに島根県の交通事故の発生率を調べました。そして事故発生率が島根県では少ないことを知り、独自の対策などがあるのではないかと思い調べました。そして高齢者交通安全アドバイザーや島根安全ドライブ・コンテスト、島根県警察本部の発行する高齢者応援ニュースなど高齢化の進む島根県では高齢者事故に対する対策が数多くあることが分かりました。なのでそれを全国に広げる方法を考えました。SNSなどのインターネットの利用や近年では手軽にホームページを作ることが出来るので交通安全の対策を行っている団体と共同してホームページを作る活動進めていきたいです。</p>
雑草を純草に！	<p>私が、このプロジェクトを立ち上げたきっかけは私自身が中学三年生の時にマイプロジェクトアワード島根県大会、全国summitでのプロジェクトで、「竹を築こう」という鈴木元太さんのプロジェクトをsnsで知った事です。また、この「竹を築こう」というプロジェクトをきっかけに地元である福岡から島根へと寮生活する事を決め、私もマイプロを通して使えないと決めつけているものを有効活用する行動をして、周りと同じ考え方に囚われない独自の発送を生み出したいという気持ちもきっかけの一つです。このプロジェクトを行う目的として、今の若者は植物、自然にはあまり興味がないような気がしているので、少しでも自然に対する興味を持って貰えたらという目的で行っています。プロジェクト期間中にした事は、ススキやねこじゃらしなどここには書ききれない程、様々な調理法で実際に食べてみて、メモしました。回数は9回です。</p>
新感覚の講演会 「セルフラボ」	<p>このプロジェクトは、新感覚の講演会イベントの企画を行っています。「聴く人に伝わる」講演会を行うことがこのプロジェクトの目的です。僕は中学生のときにたくさんの講演会を聴いてきました。しかし、今思うとその中で自分の生活に役立ったり、自分の考えが変わったりしたことは一度もありませんでした。その原因として僕が考えたのが「講演会が講演者を敬いすぎるあまり、講演会の本質、聴く人に伝わることを達成できていないのではないか」ということです。そこで、本当に「聴く人に伝わること」を目的として、現在新しい手法で講演会を開催しています。今年の8月に1度開催しました。</p>
レインボービーチを レインボーに	<p>このプロジェクトの目的は、地域への還元だ。私は、島根県の隠岐という離島の学生寮で生活している。私の住む寮は、地域の方からの様々なバックアップによって成り立っており、私達寮生の活動の念頭に置いている考えは、「地域への還元」である。そこで、島のビーチの清掃活動を通して地域への還元をしようとしたことがきっかけで始まったプロジェクトだ。主な活動の内容としては、島のビーチのごみ拾いをする事で、この活動を通して地域の方との新たなつながりを作ったり、寮生の活動のPRをする機会にもなっている。</p>

⑦当日の様子



⑧参加者の声

参加高校生

背景:

メンバーの1人が鹿島町の出身で公共交通機関が少なく通学時に不便だということからこのプロジェクトを始めました。調べていくうちに、公共交通機関が少ないために多くの島根県の高齢者が車を使用していることを知り、高齢者ドライバーの事故に繋がってしまうのではないかと考え、それを解決する必要があると考えました。また、島根県の交通事故の発生率が少ないことを知り、島根独自の対策や県民の意識など他県に応用することで日本全体での交通事故を減らしたいと考えプロジェクトに加わったメンバーもいました。

学んだこと:

島根県は高齢化と過疎化が進んでいるからこそできる対策があるのだと思いました。例えば活動を通して知った高齢者交通安全アドバイザー制度は、講習を受けている人の知識が増えて安全に生活できるだけでなく、それによって事故の件数も減り、県民も安全に暮らせるというメリットがあります。高齢化が進んでいるからこそ、高齢者ドライバーの事故に目を向けて対策をいち早く行うことができるのだと思いました。高齢化の進む島根県だからこそできる対策があり、それを全国に島根県が発信することで広がっていったら良いと思いました。また、初めはどのように調べて良いかわからず消極的だったメンバーも身近な人や地域の人と交流して活動していくうちに自ら考えて問題の解決方法を考え、新たな課題を発見するという課題解決のサイクルを見つけ積極的に活動できるようになりました。

背景:

石見神楽を外国の方に見てもらう時には、日本語で作られたパンフレットを渡しています。パンフレットには、あらすじと人物紹介しか載っていません。そのため、日本人も神楽の内容を理解することが難しく、よく誤解されている方もいました。外国の方の立場となって考えてみると、日本語が読めない・日本語を読めてもきちんと内容を理解できないという問題があると思いました。そこで外国の方にも分かりやすく伝わるようなパンフレットを作ろうと思い、このプロジェクトを始めました。また、石見神楽が日本の新たな文化として世界へ認知されることを願い、プロジェクトを進めていきました。

学んだこと:

プロジェクトを通して、自分が作ったもので人を喜ばせる楽しさや嬉しさを学びました。外国の方に私の作ったパンフレットを見ながら、石見神楽を楽しんでもらうことは、私にとってとても嬉しいことです。また、私も石見神楽を舞う人の1人なので、自分の舞を見て喜んでもらうというのはとても光栄なことでもあります。今まで外国の方に神楽を見てもらうと、「美しい舞をありがとう」などというコメントをくださっていましたが、今回パンフレットを作って渡すと「とても分かりやすかったよ」「パンフレット良かったよ」というコメントくださる方が増えて、とてもやりがいを感じました。外国の方のために、思い出として残る石見神楽を舞い、形として残るパンフレットを作る。このような夢のようなことをさせてもらっていることはとても嬉しいことです。これからもプロジェクトを続けてさらに多くの外国の方に石見神楽を楽しんでもらいたいと思います。

背景:

私がプロジェクトを立ち上げをした理由は3つあります。一つ目の理由は自分を変えたかったからです。私は自分から行動したり、問題と向き合う事が苦手だったので自分に自信がありませんでした。なので、マイプロをして自分を変えようと思い参加しました。二つ目の理由は年々ひどくなっていく少子高齢化に恐怖を覚えたからです。私の住んでいる地域では年々子供、学生が減っていき小中学校の全校生徒がどんどん減っています。子供は減っているのに毎年増えていく高齢者に私は恐怖を覚えました。三つ目の理由は田舎には都会にない良いところ(例、綺麗な自然、美味しい食べ物など)がたくさんあるのにその事が全然知られていないのはとても悲しいし、寂しいなと思ったからです。

学んだこと:しまね田舎ツーリズムの事と、サイト作成の大変さです。プロジェクトを始める前は「しまね田舎ツーリズム」の存在を知りませんでした。どうやってプロジェクトを進めていけばいいかわからず悩んでいる時、ナオファームさんにインタビューをして、「しまね田舎ツーリズム」の存在を知りました。調べていくうちにどんどん興味が出てきて、2回目のインタビューではしまね田舎ツーリズムを企画し運営しているふるさと島根定住財団にインタビューしに行き、そこでさらに細かく「しまね田舎ツーリズム」について教えていただき、とても勉強になりました。私自身あまりネットに強くないため、サイト作成にはとても苦労しました。何回も説明書を読んで、何回も記事を書きなをしてやっと完成し、サイト作成と限られた時間で記事を書くことの大変さを知りました。私は自分から行動するタイプではなかったのですが、自分からインタビューをしに行ったり、サイトを作ってみたりするなど、プロジェクトを通してとても成長できました。

⑧参加者の声

参加大人 感想

- 島根はやっぱり面白い地域だと改めて気がつきました。大人、大学生、高校生、幅広い層が集まり、2日間熱い話し合いを一緒にすることができて、自分はずっと動かないとダメだと思いました。大学入ってから怠けてしまっている部分があり、また、怪我などをしたことでよく動けていませんでしたが、動けないなりにできることあったのではないかと感じました。正直、2日間だけだと足りなかったです。4日間ぐらいかけて、キャンプをしながら話し合ってみたいなと思いました。(大学生)
- 魅力化やルーツしまねに関わって1年が経ち、今までの築いてきた関係をふりかえることができた2日間でした。やりたいと手を上げたら、たった1年でここまでやらせてもらえるというモデルになったと思うし、それが島根に関わりたい大学生にとって何よりのアピールポイントになると感じました。また、経営者の方々の話を聞いて、将来島根で働くイメージがより鮮明になりました。(大学生)
- アグレッシブ、“他を気にしない”の大切さ。気持ちよさ。島根との関わり方を一つの解として、島根という地域を軸足にして、自分の武器を尖らせて多角的に活躍するというパターンと、島根に根を下ろして、その地域のブランド価値をどうやったら最大化できるかを考え、実行するパターンと、2つあると思いました。自分はどっちだろう。どちらも面白そう。具体的なロールモデルに出会えた2日間でもありました。(大学生)
- 自分が今後どうしていきたいのか、改めて考えることができる貴重な2日間でした。就活中の身でもあるため、自分が本当にしたいことは何なのか、他の人に話す中でもう一度整理をすることができたのではないかと思います。島根について理解を深めることもできました。もともと教育に興味があったことから島根に少し興味がありましたが、それ以外にも様々なところでいろいろな人が島根のためにがんばっていることを知ることができました。(大学生)
- 意思がある人とそうでない人、自己実現へのモチベーションが高い人とそうでない人などの対立構造を描かずに多様な人がいる中で、みんなが手を取り合い社会を前に進める方法はないのだろうか、という疑問を持つことができました。(大学生)
- 高校生のマイプロにかける思いがスタートアップキャンプの時に比べ、ひしひしと伝わってきました。だからこそ余計に、彼らのあの会場の熱意を学校に戻っても持続させる環境やその方向性をそばで修正できる人が必要だと思いました。(大学生)
- 島根と関わりながら生きていくことにワクワクした2日間でした。東京からになります。また機会を見つけて関わられたらと思います。(社会人・地域課題)
- 島根から離れても関わり続けるという視点を持って考えている人が多くいました。複数あることで実施できる内容が変わると実感しました。(社会人・市議会議員)
- マイプロやってる子のキラキラ具合半端ないことと、やっぱりリアルな声を聞くこと、現場で肌感覚で感じること、対話すること、多様な人と出会う場に自ら行くことが大切だということ、またチームで参加すべきだと感じました。(社会人・教育委員会)
- 地元で持続可能なローカルエコノミーを実現するのに多くの気付きと学びがありました。対話と共創、多様な人が集まり話し合う場をつくることから始めたいと思います。そのためには必要な段階があり、地域魅力化ぶらっとフォームがどのように、あの場を開催するに至ったかをさらに知りたいです。(社会人・フリーランス)